

コントラクターを中心とした 稲WCS需給調整の進展

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

稲WCSの取組は、耕種農家(生産)、コントラクター(収穫)、畜産農家(利用)の3者が連携して実施されています。これまで複数のコントラクターが地域ごとに収穫作業を受託されてきました。しかし、そのうち3つが活動を停止したため、受け皿として、管内の新しいコントラクターである法人Fの作業受託面積が拡大しています。そこで、広範囲に活動する法人Fを対象に、広域的な需給調整や3者のグループ化を支援してきました。今年度は麦跡の収量向上、需要の多い品種への転換、利用者数の拡大などを支援しました。

【普及活動の内容】

昨年度は麦跡の低収量が課題となったため、今年度は麦跡へ高収量が期待できる専用品種の作付けを提案しました。また、畜産農家からの需要が多い高糖分系専用品種への転換を提案しました。

さらに、専用品種の導入が進んだことから、予想を大きく上回る収量があり、これらの供給先の確保に対しても支援しました。具体的には1日当たりの利用量の増加や新規の利用者への働きかけなどです。



写真1 高糖分系稲WCSの生産

【普及活動の成果】

下の表は昨年度との面積と単収の比較です。専用品種、特に酪農家からの需要が大きい高糖分系の専用品種の面積が大きく増加しました。また、麦跡も主食用から専用品種への転換が進み、全体的な単収も増加しました。さらに、グループ化された面積も拡大しました。

	面積(ha)						単収(t/10a)	
	全体	グループ	専用品種	高糖分系	麦跡	麦跡専用	グループ	麦跡
昨年度(R2)	94.6	57.7	25.4	10.5	25.0	4.7	6.7	4.9
今年度(R3)	108.2	71.0	49.3	41.0	26.4	13.2	10.6	9.6

昨年度より利用量を増やす畜産農家は3農場、うち2農場は2倍以上の利用量になります。また、新たに1農場が利用を開始する予定です。畜産農家からは高品質で安定した飼料として、さらに飼料価格高騰の中、安価な飼料としてニーズが高まっています。

◎対象者の意見

3者にメリットがあり、継続的な取組となるよう、耕種農家や畜産農家との連携を図りながら取り組んでいきたい。(代表者)